

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	Local Active-Learning Project 事業
事業主体 (連絡先)	木曾町 長野県木曾郡木曾町福島 2326 番地 6
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	573,058 円 (うち支援金: 458,000 円)

業 内 容

- ・インターナショナル・サマー・キャンプの開催
8月5日から9日の夏休み期間を利用して中学校生徒と慶應大学生(留学生)との異文化交流事業「インターナショナル・サマー・キャンプ」を開催。開田の課題を模索し、解決策を発表(18名参加)
- ・夏期冬期学習支援事業の開催
本来の目的である生徒の学力向上のため放課後学習支援を行った。夏季休み期間中は高校生や、小学校の参加もあり幅広い年代の学習支援を行った。夏季8月6~25日 冬季2月6日~3月15日



【サマーキャンプ活動状況】
【目標・ねらい】

- ① 学力の向上
- ② 異文化の知識向上
- ③ 地域住民との交流

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①学生の夏期・冬期の長期休暇を利用して、生徒・児童の学力向上のため学習支援を行い、毎日10人前後の参加者で賑わった。
- ②サマーキャンプを行うことで、異世代異文化の交流を行い、生徒一人ひとりの意識改革ができた。
- ③キャンプ期間中、学生が試住住宅を拠点として活動している。近隣住民から野菜の提供があったり、学生も住宅周辺のごみ拾いや、清掃活動をしたりと交流の幅を広げ、地域に溶け込んだ生活がなされている。

※自己評価 【 B 】

【理由】この活動によって生徒の姿勢が変わってきていると先生、保護者からは喜ばれている。生徒も学習支援に参加することで勉強が楽しくできていると声を頂き参加人数御増えている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

学習支援、サマーキャンプの実施により先生・保護者からは、生徒の勉強することの意識、姿勢が変わった。また、生徒からは先生以外から教わることにより友達的な感覚で何でも聞いて教わることができて「楽しい」と、両方から好評を得ている。更なる活動、信頼を深めるため大学生が毎月一回土日を利用して開田を訪れ、児童生徒の学習支援にあたる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある